

「気管支学」投稿原稿 チェック表

- A4用紙に25字×32行で、英文はすべてダブルスペースで入力しました。
- 英文は論文指導者（Senior Author）およびネイティブのチェックを受けました。
- 希望する論文の種類（総説、原著、症例報告など）を記載し、文字数、文献数などが投稿規定に準じていることを確認しました。
- タイトルは和英で記載し、和英の内容を一致させました。
- ランニングタイトル（英文）を、10 words 以内でつけました。
- 筆頭著者および論文責任者（Corresponding author、論文の内容および問合せに対して責任を有する著者）は本学会の会員であり、会員番号を付記しました。
- 著者全員の氏名、所属先（上付アラビア数字で表示）を和英で記載し、内容を一致させました。
- COI 報告書に記入し、PDF でのアップロードまたは FAX での送信をしました。
- 著者所属先を和英で記載し、内容を一致、および上付アラビア数字と対応させました。
- 著者連絡先（掲載用連絡先）として、氏名・所属・郵便番号・住所・e-mail を和・英で記載し内容を一致させました。また、誌面への掲載については、希望する/しないを明記しました。
- 表紙に論文指導者のサインを記し、PDF でのアップロードまたは FAX での送信をしました。
- 要約は、項目立てした形式（Structured abstract）として和英で記載し、体裁および内容を対応させました。
- 索引用語（Key words）は、和英とも5語以内で記載し、内容を対応させました。
- 索引用語、要約および本文で略語を使用する際、初出箇所を略さず表記しました。（例：気管支肺胞洗浄（bronchoalveolar lavage：BAL））
- 英文の、タイトルの頭文字（3文字以下の前置詞を除く）、Key words の各語の1単語目の頭文字、文頭の頭文字、は大文字にし、その他は小文字にしました。
- 略字・あて字を使用せず、その他表記については一般的なものに準じました。
- [助数詞] 簡は、か、またはカ、のどちらかの表記を用いました。例：3か月、2カ所
- 年は西暦表記とし、元号が必要な場合は、西暦年の後に括弧で括り記しました。
- 病理組織写真は病理専門医（医師名： ）のチェックを受けました。
- 菌名、遺伝子記号は、大文字、小文字を確認し、イタリックにしました。
- 数値の記載に際しては、四捨五入の数字など検算し、確認しました。
- 要約、本文、図表中の記載データの整合を確認しました。
- 測定単位はできる限り国際単位系（The International System of Units, SI）を使用しました。
例：cc → ml
- 有意差検定を行った場合、統計法を記載しました。
- 統計P値は、要約、本文、図表中で大文字、小文字、イタリックの表記を統一しました。
- 統計学用語は次のように表記しました。Log rank test → log-rank test または log-rank 検定または対数一順位検定、t-test → t test または t 検定、U-test → U test または U 検定、など。
- 気管支分岐の命名法は日本気管支分岐命名委員会（1950年）および日本気管支学会気管支命名ワーキンググループ（2000年）の規定に、気管支・肺葉区域の記載法は B¹、B^{1a}、S¹、S^{1a} のように簡略化し、TNM 分類の記載法は、日本肺癌学会「肺癌取扱い規約」に準じました。
- 医学用語は、日本医学会医学用語管理委員会編の日本医学会医学用語辞典（南山堂）に準じました。
- 個人情報保護に留意し、患者さんを特定できるような記載は避け、インフォームドコンセントが充分に行われていることを確認しました。
- 臨床研究成果報告の際は、実施施設の治験審査委員会や倫理委員会で承認されたものであることを記載しました。（承認番号： ）
- 図表等の引用転載がある場合、掲載書誌の著作権者から転載許可を得ました。自著の引用転載の場合でも、初出書誌の著作権者から転載許可を得ました。
- 本誌掲載論文の著作権は日本呼吸器内視鏡学会に帰属し、本学会はこれを学術著作権協会に委託することを了承します。

氏名（ ）

- ・投稿規定は、学会 H.P. の会誌「気管支学」コーナーでご覧になれます。
- ・別刷は 50 部単位で作成致します。著者校正依頼の際に希望部数をお伺い致します。
- ・入会希望その他のお問い合わせは、学会事務局宛にお願い申し上げます。